

トビタテ選考体験記（14期・多様性人材コース）

学部・研究科：国際人間科学部

学年：4年

（2021年時点）

書面審査対策／面接審査対策／トビタテ！に応募することの意義、の3つの側面から、トビタテ！の選考について書きました。
当時の自分がどのような分析をした上で、何に気をつけていたのかについて書いていますので、選考対策をしたい方や、応募を悩んでいる方に、一例として読んでいただければ幸いです。

【書面審査対策】

★留学計画：何よりも実践活動の計画の質・具体性を上げる

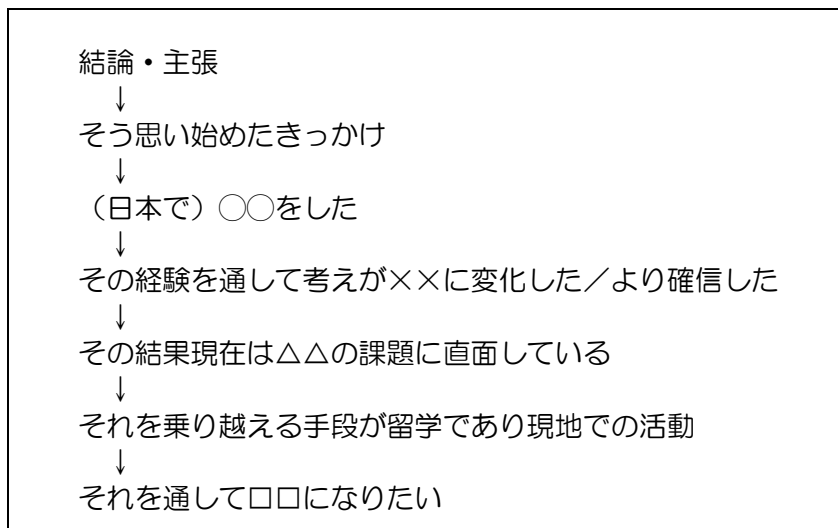
トビタテは他の奨学金と違い、実践活動に重きが置かれているので、留学計画でのアピールポイントは、①実践的な経験を通して学びを深めようとしていること、②その実践活動が留学の目的達成のために必要（目的と実践活動に一貫性がある）・重要（自分にとって大変有益な経験になる）であること、になるかと思います。アピールポイントに沿って計画の質を上げるために私が特に時間をかけて考えたのは、①座学（交換留学）でのどのような学びを、具体的にどのように実践で試そうとしているのか、②その活動先（受け入れ機関）だからこそ、目的達成のためにどのような学びを得ようとしているのか、の2点についてでした。

実践活動を具体化するのが難しく感じた場合は、トビタテ！HPの「留学大図鑑」を参考にすることをお勧めします。過去の先輩たちの留学内容などを知ることができるため、「実践活動」とは社会とどのような関わりを持つことを指しているのか、考えやすくなるかと思います。例を参考に、実践活動の5W1Hを考えてみると、少しずつ具体的になっていくはずです。

★留学計画：主張の階層構造を整理する

書きながら考えてみて修正を加えたりする人、よく考えてから書く人、などこういった自分の考えを書くような書類の書き方は人それぞれですが、どのような人にも共通して、主張の階層構造を整理することは必要なステップだと思います。

留学計画として自分が書いている内容にあまり納得や実感がなく、言葉が宙に浮いているように感じて困っていた時に私が気づいたことは、自分が留学を決断するまでに至った経緯こそが、留学を選んだ一番の根拠だ、ということでした。つまり、経緯を整理することで、自分がなぜ留学という選択肢を魅力的に感じたのか分かる、ということです。とてもシンプルなことですが、留学計画の泥沼にハマると、混乱するところでもあります。そのような状況にならないよう、もしくは、もしそのような状況になったら、主張の階層構造を考えてみてほしいと思います。提示されている問いや項目から一旦頭を離し、留学を決めるに至った経緯や考え方の変化を、新しい紙に書き出していくと、自分の考えが足りていないところがどこか気づくことができます。丁寧に考えるほど時間は多少かかりますが、自分が納得できる答えにより近づくことができるのではないかと思います。また、留学の目的と内容、トビタテ！に応募する理由、などの一貫性を見直すことにも繋がります。私は以下のように整理していました。



★自由記述書：自分の思いの強さやスキルをアピール + 自分を社会の一員として捉える

自由記述書では「留学によってどんな自分になりたいのか」という項目が難しいと思うので、取り上げたいと思います。この項目を書くときに気をつけていたのは、社会の一員としての自分の役割をアピールすること、でした。トビタテ!では、たしかに思いの強さとそれに伴った計画力・行動力が重要視されていますが、そうした思いや行動が、社会を良い方向に持っていく力であることもまた、重要です。応募書類を読み、審査してくれる人は、学生の応援と社会の発展の両方の目的を持って投資してくれている人だからです。そのようなことから、自由記述書では自分の過去の経験やスキルのアピールに加え、社会に対する自分なりの捉え方や意欲も入れることが大事なのではないかと考えていました。

この社会についての要素は人によって異なるかと思うので、曖昧な表現になってしまいますが、「①過去のどういった経験から、②社会のどういったことを課題だと感じ、③その課題をどう変えたいと思ひ、④そのために自分は将来どんな人材になりたいと思っているのか」を考えてみるというのではないかと思います。自分を「人材」として捉えることに引け目を感じることもあるかもしれませんが、社会の発展を自分ごとに落とし込み、将来の社会に対する自分の意欲の高さをアピールできる点について考えるにあたって、一つの考え方になるのではないかと思います。とはいえ、一例として捉えてくださればと思います。

また、インターネットで自由記述書の例を探すのも結構役に立ちます。ブログ等で自分の選考体験や、当時の応募書類を公開している人が多くいるので、ぜひ検索してみてください。

★両方：必ず先輩や先生にフィードバックをもらう

書面審査の結果を最も左右するのは、「考え直しと書き直しにかけた時間」だと思います。ちょっとおかしな話ですが…。一つだけアドバイスをくださいと言われたら、私は迷わず「先輩や先生に自分が書いたものを読んでもらい、フィードバックをもらい、よく考え直すこと」と答えます。それくらい重要だと思います。実を言うと、私はトビタテ!に2回応募していて、この体験記は応募2回目に関することを書いています。1回目も2回目も、ほとんど同じような考え方で、ほとんど同じような内容で下書きを書いていて、1回目は書面審査で不合格でした。それでも2回目は採用という結果が返ってきたのは、2回目は周りの人からフィードバックをもらって何度も考え直し、書き直し、伝えたいことを伝えられるように、相手に自分の考えに納得・共感してもらえるように改善したからだと、今なら言えます。

くどくなってしまっていますが、何度も書き直すことで、伝えたいことが明確かつ分かりやすくなります。あまり他人に普段は話さないようなことを書いている分、躊躇う気持ちも出てくるかと思いますが、採用を目指すなら必ず何人かに見てもらいましょう。例えば私は、トビタテ!に採用されていた先輩（渡航前）、留学経験のある先輩、ゼミの先生、に見てもらいました。

【面接審査対策】

★当日までの準備：書面審査の質問項目にないところの対策をする

書面審査では質問数も字数も限られているはずなので、書面では書き足りなかった、聞かれなかった内容を中心に対策をしていました。特に時間をかけたのは、以下の表の3つでした。さらに、それぞれについて、なぜ？を突き詰めることが重要だと思います。私は5段階ほどなぜ？を繰り返して自分の考えを深く振り返り、聞かれる質問でその段階を使い分けられるようにしていました。実際、個人面接でもグループ面接でも、どのような経験や気づきが、どのような考え方とその変化に結びついているのか、よく質問されました。

また、私の時はグループ面接のときに、留学計画についてのプレゼンをする時間が全員にあったのですが、そのプレゼン資料を作る前に質疑応答の対策をしたことで、より分かりやすいプレゼンを作ることでもできました。

① 留学計画を書くときに考えた主張の階層構造をアップグレード

より多くのエピソードや考え方・価値観の変化を加え、その繋がりを整理

② 自由記述書を書くときに考えた将来像をアップグレード

今～留学直前／留学終了直後～大学卒業／大学卒業直後～5年／それ以降の4つの期間に、それぞれどんな目標を持って何をするのか、将来像から逆算して具体化

③ 日本や日本の産業界への貢献について新しく考えを整理

(自由記述書の「留学によってどんな自分になりたいのか」や上記②と重なる部分あり)

- 自分の留学分野に関連した、日本の産業界の課題について調べて、自分の意見を整理
- それに対して自分は帰国後にどのように貢献したいのか、貢献できるのか具体化
- できれば、過去の事例についても調べ、話せるようにしておく

★当日までの準備：キャリアセンターの方に模擬面接をしてもらう

書類審査と同じように、誰かにフィードバックをもらう機会を作ることをお勧めします。書類を見てもらった人とは別の人にアドバイスをもらいたいという理由から、私は神大のキャリアセンターの方に見ていただきました。また、日本の産業界の話も出てくるので、できれば友人よりも社会人の方に頼むのがいいのではないかと思います。

模擬面接をしていただき、一通りアドバイスをいただいた後、自分の話した内容が相手にどのようにつながっているのか、聞いてみるといいと思います。話の核が別のところだと捉えられていないか、誤解がないか、などの確認になります。また、お相手に断りを入れて、音声を録音しておくのもいいと思います。

★当日・個人面接：即答する必要はないので、よく考えてから答える

私の場合、個人面接は、思っていたよりもラフな空気でした。面接というより、面談のような心構えでいいかと思います。トピタテ！の面接官は学生を応援してくださっている方なので、どんな学生さんなのかな、と私たち個人に興味を持ってくださっているからだと思います。

そのような雰囲気だからこそ、想定してなかった質問などがきたら、無理に即答せず、結論がある程度見えてから話すので大丈夫かと思います。もちろん何も話さないのは悪印象だとは思っているので、相槌のようなセリフを入れながら時間を稼ぐような形にはなりますが…。それでも即答するよりちゃんとした答えを返せるはずなので、焦らず記憶を辿る時間を取りましょう。

★当日・グループ面接：怖気付かず、楽しみな気持ちを出す

留学計画のプレゼンがグループ面接の一部にあるのですが、他の人のプレゼンを聞いて自信をなくしたり、自分の番のときに緊張したり、と気持ちが揺れる場面が多々あるかと思います。でも私が思うに、留学すごく楽しみなんです！という気持ちを全面に出してプレゼンすることが重要なのではないかと思います。私の主観が入ってしましますが、採用後の集まりで顔ぶれを見ていて、表情や声色が豊かだった人が多く採用されているように思いました。

これは後から思ったことなのですが、留学計画自体は書類審査でも出しているものなので、よっぽどのことがない限り、たいしたことない計画だ、などと思われることはほとんどないはずです。なので、留学計画の粗探しより、話し方を意識するようにするのがいいかもしれません。

【トビタテ！に応募することの意義】

インターネットでトビタテ！の先輩たちのブログ等を見ていると、トビタテ！の魅力について、コミュニティの話をよく見かけることかと思えます。しかし、私がここで書きたい魅力は、応募すること自体の意義です。その背景として、私がトビタテ！に採用されても辞退する可能性をずっと抱えたまま選考を受けていたことがあります。採用後の今も辞退の可能性がかなり高いのですが、それでも忙しい間を縫ってでも応募した甲斐は本当にあったので、ここに書いてみようかと思えます。

簡潔に、トビタテ！に応募することの意義をまとめると、学生に期待を寄せ、応援して下さっている企業の方々に、自分の留学計画や将来像を評価していただけること、です。なぜ評価していただくことが重要だと感じたのか、以下で理由を書きます。

理由をざっくりとまとめると、審査の可否は、つまり、自分が言葉にした留学計画や将来像の魅力度合いだということです。合格であれば、自分の考えや言葉に一定の評価を頂けたということで、不合格であれば、それらが不十分だったと分かります。ここで大事なものは、①自分の将来についての評価であること、②学力ではない軸が評価対象であること、の二つかなと個人的には思っています。

一つ目の、将来についての評価であること、というのは、トビタテ！への応募が将来の計画の軌道修正のきっかけになるということです。将来に対する不安は、どうなるか分からない、だけでなく、自分では進路の良し悪しが分からない、という要素も含んでいるように思えます。だからこそ、将来の計画にテーマを絞って、自分の意思を今一度ここで言葉にして再確認し、社会人に評価していただくことが重要なのではないかと感じました。大学生のうちに、大学生のことをよく見ている方々に将来の計画を評価してもらえることは、自分の目指している方向性に欠けている要素はないか、このままの努力でいいのか、考え直すことに繋がります。合格をいただけたなら自信を持って進めばいいし、不合格だったなら、前に進みたい気持ちを一旦抑え、将来の計画を改めて考えればいい。その意味で、トビタテ！に応募し、自分の将来の計画に評価をもらうことができるのは、本当に貴重な経験だと思います。

二つ目の、学力ではない軸が評価対象であること、というのは、大学は学生から社会人に心を切り替えていく期間だということが関係しています。大学生は、勉強以外にもさまざまなことに取り組んでいるかと思えます。でもそれが主な所属先である大学で評価されることはなく、例えば就活の時にやっと誰かに話す、というようなことになります。一方で、トビタテ！はそうではなく、自分が自分の将来のためにやってきたことに対して、評価してもらう機会です。自分がこれまで選んできた選択を、評価してもらえます。

長くなってしまって恐縮ですが、トビタテ！は応募すること自体にも、大きな意義があると思っています。なので、他の奨学金をメインに考えていたとしても、トビタテ！も応募するという選択肢を持っていただけると嬉しいです。きっと大きな学びがあることかと思えます。もちろん、トビタテ！をメインに考えている方も、頑張ってください。

最後になりましたが、みなさまが留学を通して素敵な時間を過ごせることを願っております！